



平成 20 年 4 月 10 日

報道関係各位

株式会社 UMN ファーマ

## 新型インフルエンザワクチン UMN-0501 の第 I / II 相臨床試験を 6 月より開始

株式会社 UMN ファーマ(本社:秋田県秋田市、社長:金指秀一、資本金:18 億 7,376 万 2 千円)は、新型インフルエンザワクチン UMN-0501 の第 I / II 相臨床試験の実施に係る治験計画について、薬事法に基づいた独立行政法人医薬品医療機器総合機構の調査期間が終了したことに伴い、6 月中旬より当該臨床試験を開始します。今回の臨床試験では、20~40 歳の健康な男性を対象として当該治験薬の安全性、有効性及び用量の検討をおこなうことを目的としています。

新型インフルエンザとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスがヒトに感染し人体内で増殖することが出来るように変異して、ヒトからヒトに感染するようになったウイルス性の疾患を指します。この新型インフルエンザは、人間界にとっては未知のウイルスで、人類のほとんどが免疫を持っていません。そのため、容易にヒトからヒトに感染して広がり重篤化しやすく、急速な世界的大流行(パンデミック)が引き起こされる危険性があります。

今回第 I / II 相臨床試験を開始する UMN-0501 は、リコンビナントタンパク<sup>(※2)</sup>製造技術を用いた新型インフルエンザワクチンです。この製造技術は、米国 Protein Sciences Corporation(PSC)<sup>(※1)</sup>により開発された技術で、当社は 2006 年 8 月に PSC からインフルエンザワクチンの日本における独占の開発権、製造権及び販売権を取得しています。

国内の既存ワクチンの製造法は孵化鶏卵を使用するものですが、当社のワクチンは細胞培養により産生されたリコンビナントタンパクを使用するため、前者と比較すると短期間で大量に生産することが可能となります。当社では、今回の臨床試験開始と並行して、ワクチン製造施設の建設も予定しており、近日中に工場用地の取得をする予定です。

当社代表取締役社長 金指秀一は、次のように述べております。「新型インフルエンザの世界的大流行が懸念される中、当社の開発するワクチンは短期間に大量に製造できるメリットを持っており、一刻も早く UMN-0501 の安定供給をできるよう着実に臨床試験を進めていく所存です。」

(※1) 高い収率のリコンビナントタンパク製造技術を有する米国コネチカット州の企業。UMN-0501 と同じ製造法により、毎年流行する季節性インフルエンザワクチン FluBlock<sup>TM</sup> の開発を米国で行っており、早ければ本年中でも米国で承認、上市する予定。

(※2) 遺伝子組換え技術によって作製されたタンパクを指す。大腸菌、酵母、昆虫、動物等の細胞に目的の遺伝子を組み込むことで人工的にタンパクを生産することが可能。インスリン、インターフェロン、抗体医薬等のリコンビナントタンパクが、既に医薬品として承認されている。



弊社概要株式会社 UMN ファーマ

■株式会社 UMN ファーマについて

株式会社UMNファーマは、Unmet Medical Needs（未充足医療ニーズ）<sup>(※)</sup>を満たす薬剤を開発する創薬ベンチャーとして平成16年に設立しました。大学や企業等の創薬シーズの中から、医薬品になる確率の高いものを的確に選び出し、スピーディーに開発を進めています。現在、インフルエンザワクチン、肺炎治療薬を主なパイプラインとしています。

(※)Unmet Medical Needs とは、満足な治療法が存在しない治療領域において新規薬剤を待望する社会全体の期待を表す。

設立： 2004年4月20日

代表取締役社長： 金指 秀一

医師、医学博士、日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医

本社： 秋田県秋田市中通3-1-9 ダイアビル秋田901

東京本社： 東京都渋谷区神南1-15-8 兼仲ビルディング4F

TEL 03-5728-5420

ホームページ： <http://umnpharma.com/index.html>

— 本件に関するお問い合わせ先 —  
株式会社 UMN ファーマ 取締役(事業開発部長)  
林 成浩  
電話：03-5728-5420  
E-mail: [press@umnpharma.com](mailto:press@umnpharma.com)